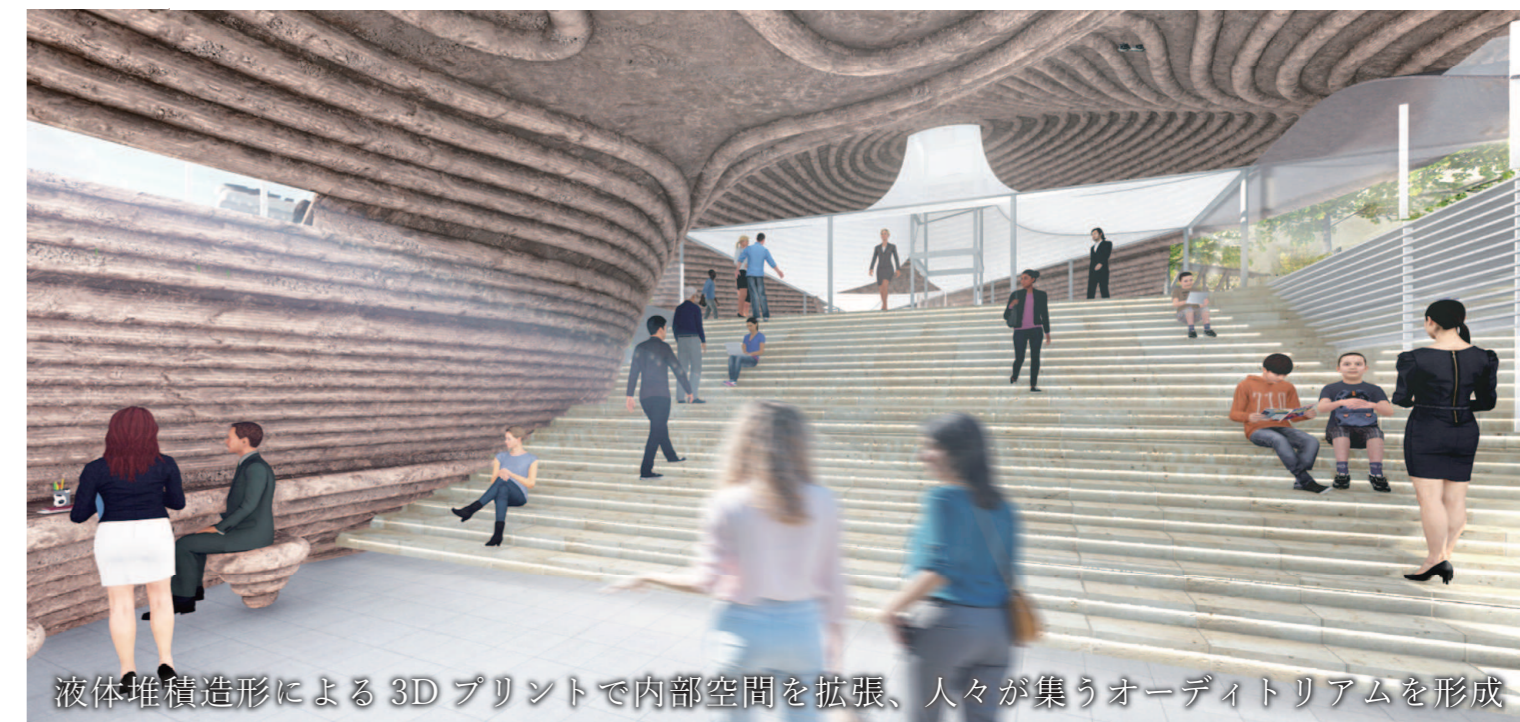


Strate Nouveau

大地を更新するモバイル・アーキテクチャ



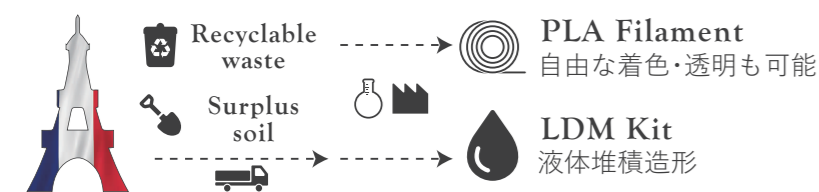
セーヌ川の沿岸に、日々様々な表情を見せるパブリックスペースを創造する



液体堆積造形による 3D プリントで内部空間を拡張、人々が集うオーディトリウムを形成

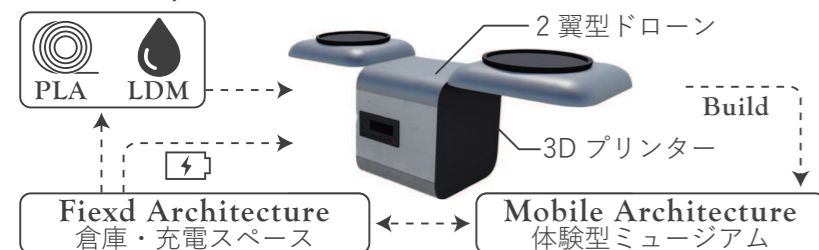
How to expand the space 3D Printer × Drone

ECO-Friendly 3D printer



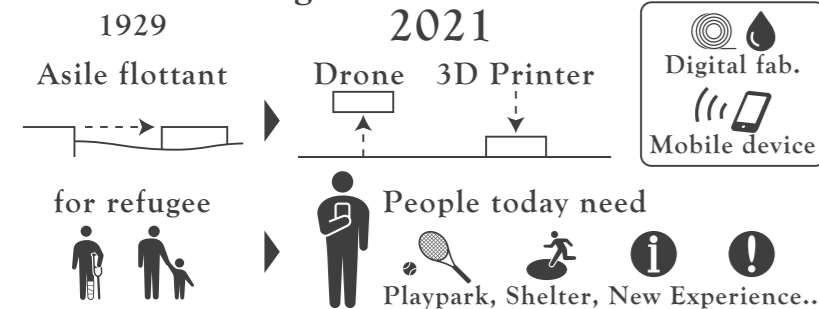
国内で発生するゴミ・残土を 3D プリンター材料に変換

Drone system



3D プリンタードローンの拠点となる建築施設を提案
建築はドローンにマテリアル・電力を供給する施設になると同時に、
デジタルファブリケーションの体験型ミュージアムとなる

Free from the ground



大地を自由にデザインする

LDM 方式の 3D プリンターによって大地を自由に造形することが可能となる。これは現代人がストレスから避難する公園や、自然災害に対抗するシェルターを自由に構築する事にも繋がる。

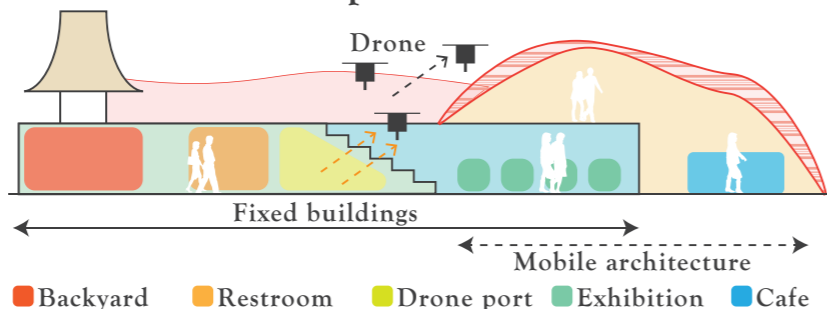
What we design Harbor to Asile



Forming diagram



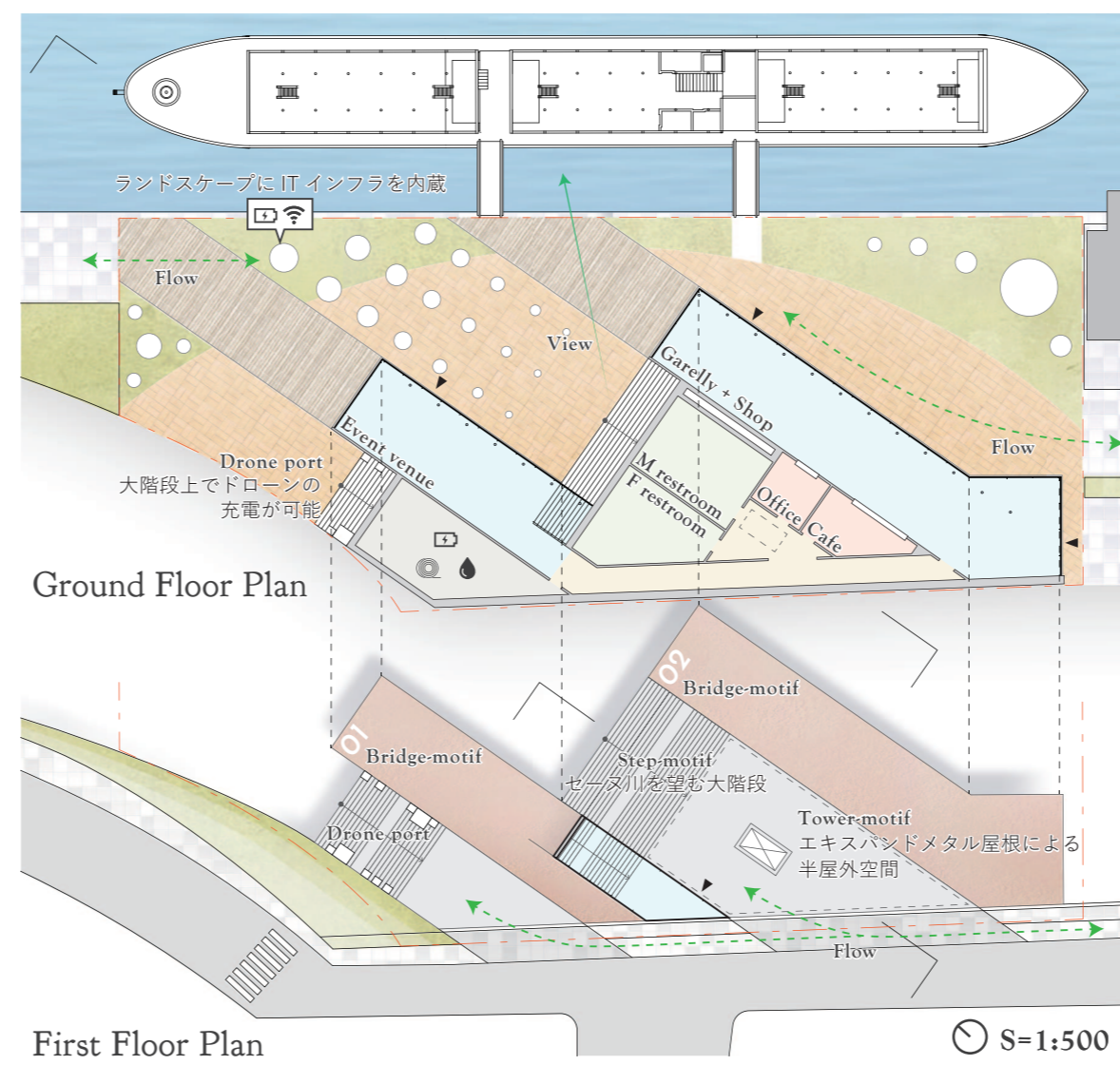
Extension of the space



近未来へと開かれた「港」

コルビュジェにとって最大の挑戦は重く不動のものであった建築を、軽やかで動的なものへと転換することであった。セーヌ川の原風景を引用し、未来の象徴でもある船体へと向かう「港」をデザインする。

Fixed buildings for Mobile Architecture Plan + Section



最新技術を利用するサンドボックス的スペースとそれを支えるバックヤード

主にプログラミングの領域では、周辺から隔離された実験空間をサンドボックスと呼称する。モバイル・アーキテクチャの黎明期においては「空間の増減を自由に試せる場」を提案することが重要であり、固定建築部にはそうした「実験」を支えるための物資保管や広告機能を搭載する。

下記図面において、3D プリンターによる拡張領域を示す

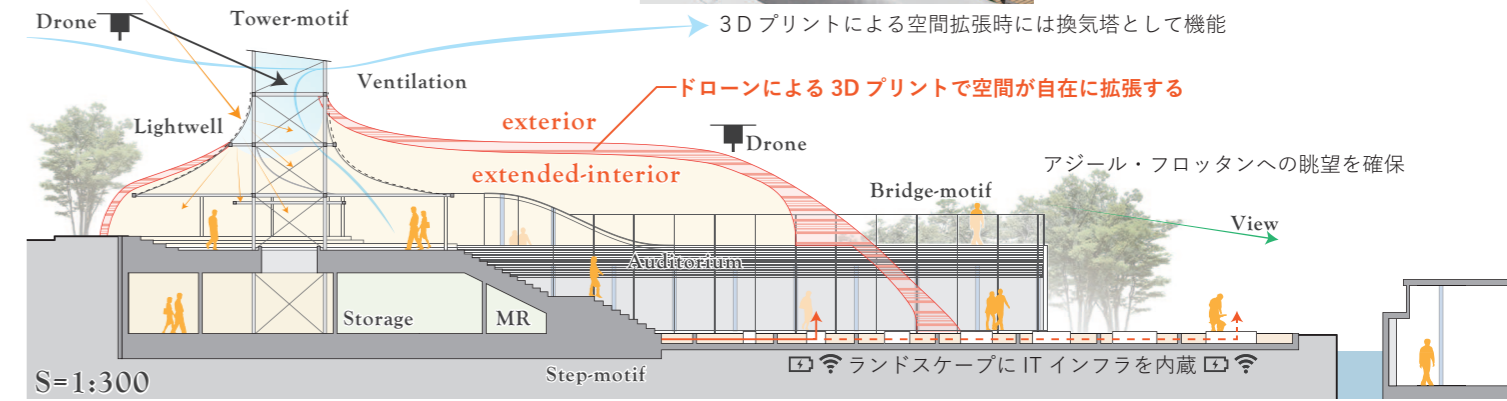
Case A : Plaza S=1:1000

祝祭空間モデル・固定建築から内外が連続的に繋がるレクチャーホールや、屋外ステージを造形する。随時解体・増築を繰り返し、形状が変化する。



Case B : Cluster S=1:1000

災害対応モデル・固定建築を共用部とし、個人用シェルを付加することで避難所を形成する。発災時に存在する拡張部の解体 + 造形で 72 時間を想定する。



自由な拡張のための余白を残した空間構成

固定建築部分にはトイレや倉庫といった最低限の機能のみを設置。外部空間に充電設備や wi-fi を格納したランドスケープや大階段といった設えを用意しておくことによって、3D プリントによってそれらを内部空間に取り込んだ場合にも、多様なアフォーダンスを発揮できる提案としている。災害時にはクラスター状にシェルターを建設するなどの展開も可能。